

ライセンス情報更新時の ユーザ作業について

.....	1
免責事項	3
更新履歴	3
概要	4
対象製品	4
Studio / Robot.....	4
Orchestrator	5
対象バージョン	6
ユーザ作業実施時期	6
ユーザ作業の切り分け	7
Studio/Robot (Orchestrator 非接続) の手順	8
(A) スタンドアロンライセンスのアクティベーション(オンライン)	8
Studio の起動	8
ライセンスアクティベーションウィザードを利用	8
コマンドプロンプトを利用	10
(B) スタンドアロンライセンスのアクティベーション(オフライン)	12
ライセンスアクティベーションウィザードを利用	12
コマンドプロンプトを利用	13
Orchestrator (スタンドアロン) の手順	17
(C) OC ライセンスのアクティベーション (オンライン)	17
(D) OC ライセンスのアクティベーション (オフライン)	18
(E) Orchestrator (Automation Cloud)	20
FAQ	21

免責事項

本資料は、UiPath ガイドの内容と整合性を保つよう細心の注意を払っておりますが、最新情報でない可能性があります。最新情報につきましては、ガイドの記載をご参照ください。

また、本資料の内容は予告なく不定期で変更される可能性がありますので、あらかじめご了承ください。

更新履歴

日付	バージョン	備考
2021年4月	1.0	PDF版 初版。旧 Web 公開コンテンツを一新。
2024年5月	1.1	旧 Web 公開コンテンツを一新。

概要

本資料は、対象となる UiPath 製品ライセンス情報の更新時にユーザ側で実行が必要な作業をまとめた資料です。ライセンス情報が更新されるタイミングは、ご契約更新時、追加でのご購入時、スタンドアロンライセンスを Orchestrator 接続した場合、フレックスプランでご購入された製品のデプロイメント変更時などが含まれません。

本作業の実施は、ご契約更新または追加ご購入における事務手続きがすべて完了していることが前提です。

対象製品

本資料の対象製品は、UiPath Studio、UiPath Robot、UiPath Orchestrator です。

Studio / Robot

Attended Robot および Studio ファミリー (StudioX、Studio、Studio Pro) を含むユーザライセンスをご利用の場合

① 対象となるユーザライセンスの例：

フレックスプラン製品：

- UiPath - Flex - Attended - Named User
- UiPath - Flex - Citizen Developer - Named User
- UiPath - Flex - Automation Developer - Named User

オンプレミスプラン製品：

- UiPath - Attended User Named User
- UiPath - Citizen Developer Named User
- UiPath - RPA Developer Named User

2024年5月現在

本資料では、Orchestrator との接続状況により、Studio / Robot を下記のように分類します。
Studio / Robot と Orchestrator との接続の有無により、ユーザ作業が異なります。

Studio/Robot 接続状況	定義
Orchestrator 非接続	Studio / Robot をスタンドアロンライセンスとしてご利用
Orchestrator 接続 (スタンドアロン)	Studio / Robot をオンプレミス版 Orchestrator に接続してご利用
Orchestrator 接続 (Automation Cloud)	Studio/Robot を Automation Cloud に接続してご利用

Orchestrator

1. Orchestrator (スタンドアロン)、いわゆるオンプレミス版 Orchestrator をご利用の場合

i 対象となるライセンスの例：

フレックスプラン製品：

※フレックスプランの場合は、ユーザおよびロボットライセンスに Orchestrator 利用権が含まれており、Orchestrator 個別のライセンスはございません。

フレックスプランでご契約頂いた際に、デプロイメント方式：「オンプレミス版 Orchestrator」を選択頂いた場合に該当します。

オンプレミスプラン製品：

- UiPath - Orchestrator – Standard
- UiPath - Orchestrator – NonProduction
- UiPath - Orchestrator – Basic
- Automation Suite

2024年5月現在

2. Orchestrator (Automation Cloud) をご利用の場合：

i UiPath Orchestrator (Automation Cloud) のライセンスはありません。

UiPath – Cloud Orchestrated 製品をご利用するためのプラットフォームです。

※フレックスプランでご契約頂いた際に、デプロイメント方式：「Automation Cloud」を選択頂いた場合に該当します。

対象バージョン

本資料は、サポート対象バージョンにおける作業手順が記載されています。

オンプレミス版サポート対象バージョン（2024年5月現在）

対象バージョン	備考
2023.10.x	2025年10月25日までメインストリーム サポート
2023.4.x	2025年4月27日までメインストリーム サポート
2022.10.x	2024年10月27日までメインストリーム サポート
2022.4.x	2024年5月9日までメインストリーム サポート
2021.10.x	メインストリーム サポート終了。2024年10月27日まで延長サポート

本資料ご参照の時点で上記記載バージョンのサポートが終了している場合がございます。

最新の情報については、下記ガイドをご参照ください。

『プロダクトライフサイクル』

URL: <https://www.uipath.com/ja/legal/trust-and-security/legal-support/product-lifecycle>

ユーザ作業実施時期

ライセンス契約更新時の場合、ユーザ作業の実施は、更新後の契約開始日以降におこなってください。

ご契約期間中にライセンス情報更新が行われる場合、ユーザ作業の実施は、UiPath 側でのライセンス情報更新処理完了後におこなってください。

1 ご契約期間中にライセンス情報更新が行われる例

- Orchestrator (スタンドアロン) に Studio/Robot を追加接続した場合
- Orchestrator (スタンドアロン) から Studio/Robot を接続解除した場合
- フレックスプランでご契約中にデプロイメント方式の変更を行った場合

ユーザ作業の切り分け

UiPath 製品別のユーザ作業をまとめています。ご利用の UiPath 製品とご利用環境に適合するユーザ作業を特定し、後続の手順を参考に作業をおこなってください。「アクティベーション」はアクティベーション手順にオンライン・オフラインの区別がある場合のみ記載しています。

i オンラインとは？

お客様のネットワーク環境におけるプロキシやファイアウォールで UiPath ライセンスサーバがホワイトリストに追加されており、UiPath ライセンスサーバに接続できる状態にあることを意味します。

	UiPath 製品	ライセンス情報取得先	アクティベーション	ユーザ作業
Studio	Orchestrator 非接続	UiPath ライセンスサーバ	オンライン オフライン	(A) (B)
	Orchestrator 接続 (スタンドアロン)	Orchestrator (スタンドアロン)	N/A	作業なし ※1
	Orchestrator 接続 (Automation Cloud)	Orchestrator (Automation Cloud)	N/A	作業なし ※1
Robot	Orchestrator 非接続	UiPath ライセンスサーバ	オンライン オフライン	(A) (B)
	Orchestrator 接続 (スタンドアロン)	Orchestrator (スタンドアロン)	N/A	作業なし ※1
	Orchestrator 接続 (Automation Cloud)	Orchestrator (Automation Cloud)	N/A	作業なし ※1
Orchestrator (スタンドアロン)		UiPath ライセンスサーバ	オンライン	(C) ※2
			オフライン	(D) ※2
Orchestrator (Automation Cloud)		UiPath ライセンスサーバ	N/A	(E)

※1 Orchestrator 接続の場合、Orchestrator でライセンス認証されているため、Orchestrator ライセンス情報更新のユーザ作業の完了とともに、自動更新されます。

※2 OC バージョン 2019.10 以上が対象です。

Studio/Robot (Orchestrator 非接続) の手順

(A) スタンドアロンライセンスのアクティベーション(オンライン)

オンラインアクティベーションは、次のいずれかの方法で実行します：

(ただし、Robot のみをインストールしている場合は「コマンドプロンプトを利用」の方法でのみ実行可能)

- ⇒ Studio の起動
- ⇒ ライセンスアクティベーションウィザードを利用
- ⇒ コマンドプロンプトを利用

1 ユーザが 1 ライセンスキーで複数の端末をご利用の場合、すべての端末で、ユーザ作業を実施する必要があります。後続の各手順をご参照ください。

Studio の起動

ポイント

- お客様のネットワーク環境におけるプロキシやファイアウォールで UiPath ライセンスサーバがホワイトリストに追加されている必要があります。
- ライセンス情報更新前後でライセンスキー変更が無いこと、ライセンスが失効していないことが前提です。
- Studio がインストールされていれば、Studio の利用状況に関わらず、この手順を実行できます。

手順

1. Studio を起動します。起動時に UiPath ライセンスサーバへ接続し、最新のライセンス情報を取得することで、自動更新されます。

ライセンスアクティベーションウィザードを利用

ポイント

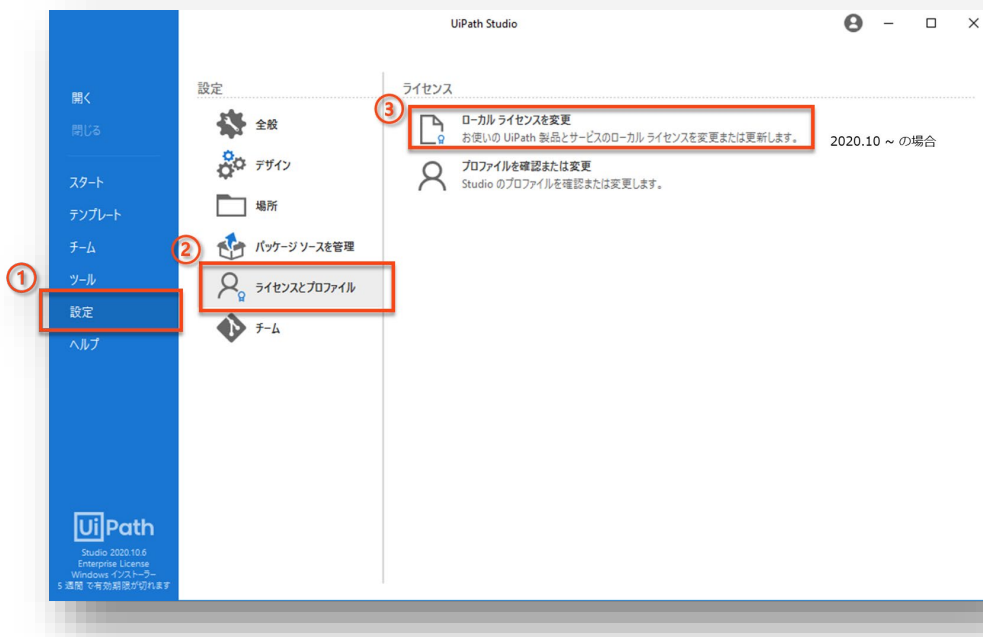
- Studio がインストールされていれば、Studio の利用状況に関わらず、この手順を実行できます。
- 再度アクティベーション画面を表示し、ライセンスのアクティベーションを行います。
- 更新前後でライセンスキーが変更した場合も、本手順をそのまま実行できます。

手順

UiPath ガイド：『Studio をアクティベーションする-ライセンス キーを更新する』

URL: <https://docs.uipath.com/installation-and-upgrade/lang-ja/docs/studio-activating-your-studio-license>

1. UiPath Studio を起動し、左ペインに表示の [設定] > [ライセンスとプロフィール] に移動します。
2. [ローカル ライセンスを変更] をクリックし、アクティベーション画面を開きます。
 ※ 2020.4 以下の場合、[ライセンスを表示または編集]
 ※ Orchestrator に接続されている場合、「ローカルライセンスを変更」がグレーアウトしてクリックができない状態になっています。スタンドアロンライセンスでアクティベーションを行う場合は、画面右上のユーザー名アイコンをクリックし、サインアウトを行ってください。



3. [自動] オプションが選択されていることを確認し、[ライセンス キーを追加] フィールドに、ライセンス情報更新後のライセンス キーを入力します。16 桁（ハイフンあり）の場合は半角ハイフンも含めてライセンスキーを入力します。例：1111-2222-3333-4444
4. [続行] ボタンをクリックします。これでライセンスのオンラインアクティベーションが完了します。

コマンドプロンプトを利用

ポイント

- ライセンス利用ユーザの Windows アカウントへログインしていることが前提です。
- UiPath.LicenseTool.exe を利用します。
- ライセンスキー変更有無により、操作内容が一部異なります。
- ライセンスキーの変更がある場合、変更前のライセンスを一度ディアクティベーション後、変更後のライセンスキーでライセンスをアクティベーションします。
- Studio がインストールされていない場合はこちらのコマンドプロンプトを利用したアクティベーションを行います。

手順

UiPath ガイド：『LicenseTool コマンドの説明—オンラインでの操作』

URL: <https://docs.uipath.com/robot/lang-ja/docs/licensetool-command-descriptions>

ライセンスキーの変更有無により操作が異なります。該当する手順を実行してください。

◆ ライセンスキーの変更が無い場合

1. コマンドプロンプトを起動します。cd コマンドで UiPath.LicenseTool.exe がインストールされたディレクトリへ移動します。

```
cd C:\Program Files (x86)\UiPath\Studio
```

UiPath.Licensetool.exe の保存場所はユーザーモードでインストールした場合、以下になります。

```
C:\Users\ユーザー名\AppData\Local\Programs\UiPath\Studio
```

2. 下記のコマンドを実行してオンラインアクティベーション (更新) を実行します。

```
UiPath.LicenseTool.exe update
```

3. 下記の表示とともに、オンラインアクティベーション（更新）が完了します。

```
License registration state: ActiveLicense  
License successfully updated!
```

- ◆ **ライセンスキーの変更がある場合**

1. コマンドプロンプトを起動します。cd コマンドで UiPath.LicenseTool.exe がインストールされたディレクトリへ移動します。

```
cd C:\Program Files (x86)\UiPath\Studio
```

UiPath.Licensetool.exe の保存場所はユーザーモードでインストールした場合、以下になります。

```
C:\Users\ユーザー名\AppData\Local\Programs\UiPath\Studio
```

2. 下記のコマンドを実行して、一度ライセンスのディアクティベーションを実行します。

```
UiPath.LicenseTool.exe deactivate
```

3. 下記の表示とともに、ライセンスがディアクティベーションされます。

```
License registration state: NoLicenseAvailable  
License successfully deactivated!
```

4. 変更後のライセンスキーで、下記のコマンドを実行しオンラインアクティベーションを実行します。

```
UiPath.LicenseTool.exe activate -l <変更後のライセンスキー>
```

入力の例 : UiPath.LicenseTool.exe activate -l 1111-2222-3333-4444

5. 下記の表示とともに、オンラインアクティベーションが完了します。

```
License registration state: ActiveLicense  
License successfully activated!
```

(B) スタンドアロンライセンスのアクティベーション(オフライン)

オフラインアクティベーションは、次のいずれかの方法で実行します：

- ⇒ ライセンスアクティベーションウィザードを利用
- ⇒ コマンドプロンプトを利用

1 ユーザが 1 ライセンスキーで複数の端末をご利用の場合、すべての端末で、ユーザ作業を実施する必要があります。後続の各手順をご参照ください。

ライセンスアクティベーションウィザードを利用

ポイント

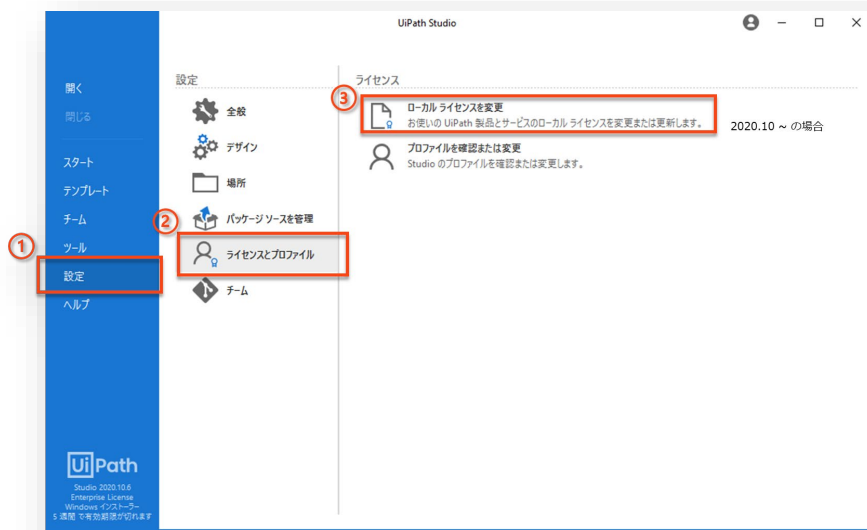
- Studio がインストールされていれば、Studio の利用状況に関わらず、この手順を実行できます。
- 再度アクティベーション画面を表示し、ライセンスのアクティベーションを行います。
- 更新前後でライセンスキーが変更した場合も、本手順をそのまま実行できます。
- アクティベーション画面は、アクティベーションのすべての作業が完了するまで、閉じたり、[戻る] をクリックしないでください。アクティベーションエラーの原因となります。

手順

UiPath ガイド：『Studio をアクティベーションする-ライセンス キーを更新する』

URL: <https://docs.uipath.com/installation-and-upgrade/lang-ja/docs/studio-activating-your-studio-license>

1. UiPath Studio を起動し、左ペインに表示の [設定] > [ライセンスとプロファイル] に移動します。
2. [ローカル ライセンスを変更] をクリックして、アクティベーション画面を開きます。
 - ※ 2020.4 以下の場合、[ライセンスを表示または編集]
 - ※ Orchestrator に接続されている場合、「ローカルライセンスを変更」がグレーアウトしてクリックができない状態になっています。スタンドアロンライセンスでアクティベーションを行う場合は、画面右上のユーザ名アイコンをクリックし、サインアウトを行ってください。



3. [手動] オプションが選択されていることを確認の上、[ライセンス キーを追加] フィールドに、ライセンス情報更新後のライセンス キーを入力し、[続行] をクリックします。16桁（ハイフンあり）の場合は半角ハイフンも含めてライセンスキーを入力します。例：1111-2222-3333-4444
4. 手動 - ステップ 1 画面に [ライセンス要求] (アクティベーション要求証明書)の文字列が表示されます。この文字列すべてをアクティベーション証明書ファイル（例：certificate.txt）として保存し、[続行] をクリックします。
5. インターネットに接続可能な端末の任意のブラウザより、アクティベーションポータル (<https://activate.uipath.com/>) にアクセスし、[ライセンスのアクティベーションまたは更新] タブが選択されていることを確認の上、ライセンス要求（アクティベーション要求証明書）を貼り付けます。
6. [ライセンスファイルを生成] をクリックします。
7. 「正常にアクティベーションされました」と表示され、ライセンスファイルが生成されます。
8. [ライセンスファイルのダウンロード] または [ライセンスをクリップボードにコピー] を選択します。必要に応じて、生成されたライセンスファイルをアクティベーションポータルにアクセスした端末からアクティベーション作業中の端末へ移動します。
9. アクティベーション作業中の端末で、生成されたライセンスファイル(ライセンス応答)を手動 - ステップ 3 画面に貼り付け、[続行] をクリックします。
10. これでライセンスのオフラインアクティベーションが完了します。

コマンドプロンプトを利用

ブが選択されていることを確認の上、ライセンス更新要求テキスト (Update Token)を貼り付け、[ライセンスファイルを生成]をクリックします。

4. 「正常にアクティベーションされました」と表示され、ライセンスファイルが生成されますので、ライセンスファイルのダウンロード] または [ライセンスをクリップボードにコピー] を選択します。
5. 手順2の端末で、下記のコマンドのいずれかを実行し、生成されたライセンスファイルの内容を反映し、オフラインでライセンス更新を実行します。

(ア) ライセンスファイルのパスを指定する場合

```
UiPath.LicenseTool.exe update-offline -f <ライセンスファイルのディレクトリ>
```

入力の例 : UiPath.LicenseTool.exe activate-offline -f c:¥Downloads¥license.txt

(イ) ライセンスファイルの内容をそのまま入力する場合

```
UiPath.LicenseTool.exe update-offline -i <ライセンスファイルの内容>
```

6. 下記の表示とともに、オフラインでライセンス更新が完了します。

```
License registration state: ActiveLicense
License successfully updated!
```

◆ ライセンスキーの変更がある場合

1. 変更前のライセンスキーのライセンス情報を削除するため、該当するディレクトリへ移動し、LicenseInternal フォルダ配下 (ライセンス情報) を削除します。この操作は変更前のライセンスキーが失効しており、今後利用されることがないことが前提です。

変更前のライセンスキーの形態	ディレクトリ
16桁ライセンスキー(Named User)	%AppData%¥Uipath¥LicenseInternal
16桁ライセンスキー(Node locked)	%ProgramData%¥Uipath¥LicenseInternal
18桁ライセンスキー	

2. コマンドプロンプトを起動します。cd コマンドで UiPath.LicenseTool.exe がインストールされたディレクトリへ移動します。

```
cd C:\Program Files (x86)\UiPath\Studio
```

UiPath.Licensetool.exe の保存場所はユーザーモードでインストールした場合、以下になります。

```
C:\Users\ユーザー名\AppData\Local\Programs\UiPath\Studio
```

3. 下記のコマンドを実行してアクティベーション要求テキスト生成を実行します。

```
UiPath.LicenseTool.exe activation-request -l <ライセンスキー>
```

入力の例 : UiPath.LicenseTool.exe activation-request -l 1111-2222-3333-4444

アクティベーション要求テキストが Activation Token としてコマンドプロンプト画面に出力されます。Activation Token の内容を任意のテキストファイルに保存します。

出力例 :

```
C:\Program Files (x86)\UiPath\Studio\UiPath.LicenseTool.exe activation-
request -l <ライセンスキー>
Activation Token:
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX
XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX
Go to https://activate.uipath.com and paste the activation token in the
dialogue box to generate the license file for offline update.
```

4. インターネットに接続可能な端末の任意のブラウザより、アクティベーションポータル (<https://activate.uipath.com/>) にアクセスし、[ライセンスのアクティベーションまたは更新]タブが選択されていることを確認の上、アクティベーション要求テキスト (Activation Token)を貼り付け、[ライセンスファイルを生成] をクリックします。
5. 「正常にアクティベーションされました」と表示され、ライセンスファイルが生成されますので、[ライセンスファイルのダウンロード] または [ライセンスをクリップボードにコピー] を選択します。
6. 手順 3 の端末で、下記のコマンドのいずれかを実行し、生成されたライセンスファイルの内容を反映し、オフラインでライセンス更新を実行します。
(ア) ライセンスファイルのパスを指定する場合

```
UiPath.LicenseTool.exe activate-offline -f <ライセンスファイルのディレクトリ>
```

入力の例 : UiPath.LicenseTool.exe activate-offline -f c:¥Downloads¥license.txt

(イ) ライセンスファイルの内容をそのまま入力する場合

```
UiPath.LicenseTool.exe activate-offline -i <ライセンスファイルの内容>
```

7. 下記の表示とともに、オフラインでライセンス更新が完了します。

```
License registration state: ActiveLicense  
License successfully activated!
```

Orchestrator (スタンドアロン) の手順

正常にライセンス更新を完了させるため、ユーザ作業を実行する前に下記をご確認ください。

- ライセンス情報更新時に Orchestrator に接続するロボット数が減少する場合、ご利用停止予定の Studio/Robot を Orchestrator から切断し、Orchestrator から該当するロボットを削除してください。

i 接続するロボット数が減少する例

Attended Robot (Attended User) Named User のライセンス数が 10 から 5 になる場合、Orchestrator 上の Attended Robot (Attended User) ロボットの設定数を 5 以下にする。

UiPath ガイド : Orchestrator 『ライセンスの管理』

URL: <https://docs.uipath.com/orchestrator/lang-ja/docs/managing-your-licenses>

(C) OC ライセンスのアクティベーション (オンライン)

ポイント

- Orchestrator が プロキシサーバ経由でインターネット接続されている環境の場合、プロキシサーバを下記公式ガイドに従って設定すれば、オンラインアクティベーションが可能です。

プロキシサーバ設定ガイド :

<https://docs.uipath.com/ja/orchestrator/standalone/2023.10/installation-guide/installation->

[considerations#proxy-configuration](#)

- 更新前後でライセンスキーが変更される場合、(D) OC ライセンスのアクティベーション（オフライン）の手順を実行してください。

手順

UiPath ガイド：『ライセンスを管理するーライセンスの更新』

URL: <https://docs.uipath.com/orchestrator/lang-ja/docs/managing-your-licenses>

1. 更新対象のライセンスがアクティベーションされている Orchestrator にログインし、テナントレベルまたはホストレベルの [ライセンス] ページに移動します。
2. [更新] をクリックします。「ライセンスの更新方法を指定してください。」というメッセージが表示されます。
3. [オンライン] を選択します。更新は自動的に処理されます。

(D) OC ライセンスのアクティベーション（オフライン）

手順

UiPath ガイド：『ライセンスを管理するーライセンスの更新』

URL: <https://docs.uipath.com/orchestrator/lang-ja/docs/managing-your-licenses>

1. 更新対象のライセンスがアクティベーションされている Orchestrator にログインし、テナントレベルまたはホストレベルの [ライセンス] ページに移動します。
2. [更新] をクリックします。「ライセンスの更新方法を指定してください。」というメッセージが表示されます。
3. [オフライン] を選択します。「オフラインでアクティベーションー有効なライセンス ファイルをお持ちですか?」というダイアログボックスに切り替わります。[いいえ] を選択し、[次へ] をクリックします。
4. 「オフラインでアクティベーションー要求ファイルを生成」というダイアログボックスが表示されます。[ライセンスキー] を入力、環境を選択後、[生成] をクリックします。
16 桁（ハイフンあり）の場合は半角ハイフンも含めてライセンスキーを入力します。
例：1111-2222-3333-4444
5. 要求ファイルが生成されます。ダイアログボックスの内容に従い、要求ファイルをダウンロードします。

6. インターネットに接続可能な端末の任意のブラウザより、UiPath アクティベーションポータル (<https://activate.uipath.com>) にアクセスし、要求ファイルをアップロードしてライセンス ファイルを生成します。
7. Orchestrator の「オフラインでのアクティベーション」ダイアログボックスに戻り、UiPath アクティベーションポータルで生成されたライセンス ファイルをアップロードし、[更新] をクリックするとライセンス情報が更新されます。

(E) Orchestrator (Automation Cloud)

ポイント

- Automation Cloud のライセンスは、UiPath でのライセンス情報更新処理で自動的に更新されます。
- Orchestrator へ配布しているライセンス数量が更新前後で減少する場合にのみ作業が必要です。

手順

UiPath ガイド：『ライセンスの割り当て超過』

URL: <https://docs.uipath.com/automation-cloud/lang-ja/docs/license-overallocation>

1. ご利用停止予定の Studio/Robot を Orchestrator から切断し、Orchestrator から該当するロボットを削除してください。
2. Automation Cloud 上で [管理] > [テナント] へアクセスし、対象テナント画面右側のメニューより、ライセンス割り当て画面を開き、各ライセンスを適切な数量に割り当てて保存してください。

FAQ

Q. 更新前後でライセンスキーが変更される場合、何か特別な操作が必要ですか。

はい。本資料でご案内の手順内にライセンスキーが変更される場合の手順が含まれていますので、該当箇所をご確認ください。

Q. 更新前後で Orchestrator(非接続)の Studio/Robot のライセンスモデルが変更される場合、何か特別な操作が必要ですか。

はい。ライセンスモデルを変更される場合、更新の契約処理の完了後にご利用ユーザの Windows アカウントにログインし、更新作業を実行してください。

Q. 更新前後で Orchestrator 接続 の Studio/Robot のライセンスモデルが変更される場合、何か特別な操作が必要ですか。

はい。ライセンスモデルを変更される場合、Orchestrator ライセンス更新前に、ご利用停止予定の Studio/Robot の Orchestrator 接続を切断し、Orchestrator からロボットを削除してください。



UiPath ガイド : Orchestrator 『ライセンスの管理』

URL: <https://docs.uipath.com/orchestrator/lang-ja/docs/managing-your-licenses>

UiPath ガイド : Orchestrator 『ライセンスについて』

URL: <https://docs.uipath.com/orchestrator/lang-ja/docs/about-licensing>

Q. Orchestrator (スタンドアロン) をマルチテナント構成で利用している場合、何か特別な操作は必要ですか。

はい。Host テナントから各テナントへライセンスを配布している場合は必要です。

Host テナントのライセンス更新をしても、各テナントライセンスの有効期限は自動更新されません。

Host テナントでライセンスの更新を行った後、Host テナント内のテナント画面で、ライセンスを更新したいテナントの「ライセンスの割り当てボタン」を押し、どれか一つでもロボットのライセンス数を再入力し、「割り当て」ボタンを押し、ライセンス情報更新を反映してください。

Q. Orchestrator (非接続) の Studio/Robot をプロキシ接続でオンラインアクティベーションする方法はありますか。

はい、UiPath.LicenseTool.exe コマンドラインツールにあるオプションのパラメーターを利用して、プロキシ接続でライセンスをアクティベーションする設定を行うことで、オンラインアクティベーションができます。詳細は、下記手順をご参照ください。

手順

UiPath ガイド：『LicenseTool コマンドの説明—オフラインでの操作』

URL: <https://docs.uipath.com/robot/lang-ja/docs/licensetool-command-descriptions>

ライセンスキーの変更有無により操作が異なります。手順(A) のコマンドプロンプトを利用の場合、手順の一部を下記に差し替えてください。該当する手順を実行してください。

◆ ライセンスキーの変更が無い場合

手順 2 を下記に差し替えてください。

下記のコマンドを実行してオンラインアクティベーションを実行します。

```
UiPath.LicenseTool.exe update -u <プロキシ接続に使用される URL> -p <プロキシ接続ポート番号> -s<プロキシユーザー名> -w<プロキシユーザーのパスワード>
```

◆ ライセンスキーの変更がある場合

手順 4 を下記に差し替えてください。

下記のコマンドを実行してオンラインアクティベーションを実行します。

```
UiPath.LicenseTool.exe activate -l <ライセンスキー> -u <プロキシ接続に使用される URL> -p <プロキシ接続ポート番号> -s<プロキシユーザー名> -w<プロキシユーザーのパスワード>
```

Q.ライセンス更新時に、Studio/Robot をバージョンアップする場合の手順を教えてください。

Studio/Robot のバージョンアップ後、本資料を参考の上、ライセンス情報更新手順を実行してください。



- UiPath ガイド：『Studio を更新する』
URL: <https://docs.uipath.com/installation-and-upgrade/lang-ja/docs/studio-update-studio>
- UiPath ガイド：『Robot を更新する』
URL: <https://docs.uipath.com/installation-and-upgrade/lang-ja/docs/updating-the-robot>
- UiPath ナレッジベース記事：『UiPath 製品 バージョンアップガイド』
URL: <https://www.uipath.com/ja/resources/knowledge-base/uipath-version-up-guide>

Q.ライセンス更新時に、Orchestrator のバージョンアップをする場合の手順を教えてください。

Orchestrator のバージョンアップ後、本資料を参考の上、ライセンス情報更新手順を実行してください。



- UiPath ガイド：『更新と移行について』
URL: <https://docs.uipath.com/installation-and-upgrade/lang-ja/docs/about-updating-and-migrating>
- UiPath ナレッジベース記事：『UiPath Orchestrator Version Up Guide』
URL: <https://www.uipath.com/ja/resources/knowledge-base/uipath-orchestrator-version-up-guide>

Q. Studio/Robot を Orchestrator (スタンドアロン) に接続した場合、作業は必要ですか。

UiPath 側でライセンス情報更新処理を行い、Orchestrator (スタンドアロン) に Studio/Robot を追加接続された場合、Orchestrator (スタンドアロン) の情報更新を反映するため、本資料 (C)、(D) のいずれかを実行します。その後、Studio/Robot の接続設定を行います。

Q. Studio/Robot を Orchestrator (Cloud) に接続した場合、作業は必要ですか。

UiPath 側で Automation Cloud のライセンス情報更新処理を行い、Automation Cloud に Studio/Robot が追加された場合、Automation Cloud に自動的にライセンスが追加されています。Automation Cloud にユーザ追加、またテナントへライセンス配布後、Studio/Robot の接続設定を行います。

Q. Orchestrator (スタンドアロン) のライセンスの情報更新作業の際に利用者への影響はないでしょうか。

ライセンス更新作業時のジョブ実行等は、予期せぬエラーが発生する可能性があるため、ロボットを実行していない時間帯にライセンスの更新をして頂くことを推奨しております。

Q. ライセンス期間が終了した後も猶予期間の設定はありますか。

はい。2019.10以降のバージョン※をお使いの場合、製品によっては、ライセンス終了日以後もライセンスが失効しないという猶予期間があります。

ガイド：

<https://docs.uipath.com/orchestrator/lang-ja/docs/about-licensing#grace-period>

この猶予期間は、技術的にライセンス使用ができる期間に過ぎず、法的な使用期間を伸長するものではありません。ライセンスのご利用を継続される場合、速やかに更新作業を行ってください。

■Orchestrator 具体的な日数の確認手順

※ Orchestrator パッチバージョンによっては、猶予期間が正常通り機能しないバージョンが含まれています。

事象：ホストからライセンスが割り当てされたテナントに猶予期間が設定されない

2019.10.x については、2019.10.22 で修正されています。

2019.10.22 リリースノート：<https://docs.uipath.com/releasenotes/lang-ja/docs/orchestrator-2019-10-22#bug-fixes>

2020.4.x (サポート終了) については、2020.4.3 で修正されています。

2020.4.3 リリースノート：<https://docs.uipath.com/releasenotes/lang-ja/docs/orchestrator-2020-4-3>

猶予期間の設定状況につきましては、下記の手順でご確認ください。

Orchestrator

ガイド：

<https://docs.uipath.com/orchestrator/reference/license-requests#retrieving-license-information>

Swagger を利用します。

Swagger について：<https://docs.uipath.com/orchestrator/reference/api-references>

ホストテナントの場合

1. Orchestrator Host Tenant に管理者権限でログインします。

2. Orchestrator URL の最後に /swagger を追加し、ブラウザで開きます。
3. [Setting] から Host Licenses を開きます。
4. /odata/HostLicenses の項目で、 [Try it Out] > [Execute] をクリックします。
5. Response Body からライセンス情報を確認できます。日時は UNIX 時間で出力されます。
※UNIX 時間は、下記サイトを使って変換できます。

<https://www.unixtimestamp.com/>

ホスト以外のテナントの場合：

1. ライセンス情報を確認するテナント ID (Tenant ID) を確認します。
Orchestrator テナントログイン後、Orchestrator テナント URL <<https://<orchestrator URL>/>> の後に、tid=<数字> の数字がテナント ID です。
例：tid=2 の場合、テナント ID は、2 です。
2. Orchestrator Host Tenant に管理者権限でログインします。
3. Orchestrator URL の最後に /swagger を追加し、ブラウザで開きます。
4. [Setting] から Host Licenses を開きます。
5. /odata/HostLicenses/UiPath.Server.Configuration.OData.GetTenantLicense(tenantId={tenantId}) の項目で、手順 1 で取得した Tenant ID を Parameters にある tenantId 部分へ入力の上、[Try it Out] > [Execute] をクリックします。
6. Response Body からライセンス情報を確認できます。日時は UNIX 時間で出力されます。
※UNIX 時間は、下記サイトを使って変換できます。<https://www.unixtimestamp.com/>

■スタンドアロン 具体的な日数の確認手順

スタンドアロンライセンス

ガイド：

<https://docs.uipath.com/robot/lang-ja/docs/licensetool-command-descriptions>

- (1) UiPath RPA Platform がインストールされている端末で、コマンドプロンプトを起動します。
- (2) 次のようなコマンドを実行して、UiPath RPA Platform がインストールされているディレクトリへ移動します：
(2019.10 の場合) `cd "c:\Program Files (x86)\UiPath\Studio"`
- (3) 次のコマンドを実行して、ライセンス情報を出力します：

UiPath.LicenseTool.exe info

(4) ライセンス情報が出力されます。

Activation Id : アクティベーション時に生成される各アクティベーションの識別子 (例 : UIP-xxxxxxxxxx)

License registration state : ライセンスの状況 (例 ActiveLicense)

License code : ライセンスキー (例 : xxxx-xxxx-xxxx-xxxx)

Start date (UTC) : ライセンス開始日 (契約と異なる場合があるが、ご利用に影響なし) (例 : YYYY-MM-DD)

End date (UTC) : ライセンス終了日 (ライセンスサーバ時刻との時差の関係で契約終了日翌日の日付) (例 : YYYY-MM-DD)

Grace Period (days) : ライセンスの猶予期間 (例 : DD)

End date including grace period : ライセンスの猶予期間後のライセンス失効日 (例 : YYYY-MM-DD)

Next check date : 現在、本機能は実装されておりません。 (例 : YYYY-MM-DD)

Q. ライセンス更新時にフレックスプランへ変更しました。今までの更新作業と何か変更点はありますか。

フレックスプランは商用ライセンス変更によるものであり、基本的に製品仕様への影響はございません。よって、従前と同様の更新作業が必要となります。

Q. スタンドアロンライセンスのディアクティベーション作業は、管理者 ID で Windows にログインすれば、実際に利用中のユーザ分のディアクティベーションも可能でしょうか。既に対象ユーザが退職や異動をしており、対象ユーザでログインしてディアクティベーションを行う事ができません。

いいえ、ディアクティベーション作業は対象のユーザで Windows にログインの上、実行する必要がございます。但し、対象ユーザの退職や異動、PC の撤去や初期化等でディアクティベーションが難しい場合は、弊社側で対象ユーザに紐づくライセンスサーバ上のアクティベーション情報をディアクティベーションする事も可能です。UiPath 製品の技術的なお問合せ窓口まで以下情報をご提示の上、ご依頼ください。

・ライセンスキー/対象ユーザ ID (Windows ログイン ID) /端末名

Q. Orchestrator（スタンドアロン）接続で RPA Developer から Automation Developer へ切り替える場合、どういう風に設定変更を行えばよいでしょうか。

Orchestrator 接続でご利用の RPA Developer から Automation Developer へ切り替えとなる場合、Orchestrator 上に設定されるロボットライセンスの種類が変更されます。

そのため、Orchestrator ライセンス更新時に Orchestrator にて、ユーザに紐づく Attended ロボットのライセンス種類の設定変更が必要となります。

[Orchestrator 上で設定するロボットライセンスの種類]

Orchestrator バージョン	既存契約のライセンス (RPA Developer)	更新後のライセンス (Automation Developer)
2020.10.x	Studio	Studio Pro
2021.4.x~	RPA Developer	Automation Developer

ガイド：

<https://docs.uipath.com/orchestrator/lang-ja/docs/about-licensing#types-of-robot-licenses>

ライセンス更新前後で RPA Developer のライセンス数が 1 以上から 0 へ変更されます。

Orchestrator ライセンスの仕様上、更新後に 0 となるライセンスがある場合、Orchestrator ライセンス更新前に当該ライセンスを解放する必要があります。

よって、Orchestrator ライセンス更新前にライセンスの種類が RPA Developer/Studio のユーザまたはロボットをすべて削除する必要があります。一度ユーザまたはロボットを削除すると、その間、当該ライセンスのご利用はできませんこと、ご注意ください。

ライセンスのご利用を再開するには、Orchestrator ライセンス更新後、ライセンスの種類が RPA Developer Pro/Studio Pro のユーザまたはロボットを再度設定する必要があります。

※Automation Developer をご利用頂く為には、Orchestrator また接続する Studio/Robot 端末ともにバージョン 2020.10 以上をご利用頂く必要がございます。

※契約更新時に本切り替えを円滑に進めていただくための移行支援ライセンスを別途ご用意しております。必要に応じて、弊社営業担当またはご購入元へご確認いただけますようお願いいたします。

Q. Orchestrator（スタンドアロン）接続で Non-Production Robot から Test Robot へ切り替える場合、どういう風に設定変更を行えばよいでしょうか。

Non Production Robot から Test Robot への移行方法につきましては以下リンクより弊社ガイドをご確認ください。

ガイド :

<https://docs.uipath.com/ja/overview/other/latest/overview/transitioning-nonproduction-licenses-to-testing-licenses#robot-license-conversion>

Q. ライセンス更新時のエラー一覧を参考したいですが、参考するガイド等がありますか。

ライセンス更新時のエラー一覧とその原因、対応方法について以下リンクより弊社 Forum 記事をご確認ください。

フォーラム URL:

<https://forum.uipath.com/c/japan/license-faq/213>

Q. Automation Suite を利用しています。更新作業の手順を教えてください。

Automation Suite の更新作業の手順は以下リンクより弊社ガイドをご確認ください。

ガイド:

<https://docs.uipath.com/ja/automation-suite/automation-suite/2023.10/admin-guide/managing-your-host-license>

Q. 更新作業は、更新後のライセンスキー通知書が納品され次第行ってもよいですか。

更新前後でライセンス構成が変更されない場合、更新作業はライセンス納品後、開始日前行ってもかまいません。一方、更新前後で製品数量が増えた場合（同一の製品で数量が増えた場合も含まれます）については、原則、更新後のライセンス開始日以後に行ってください。もし更新作業に時間がかかるなどどうしても開始日前に作業開始が必要なやむを得ない事情がある場合、事前に更新作業を行ったとしても、新規・追加分は開始日までは使用しないでください。

また、更新前後で数量が減数となる場合も、更新作業時期にご留意ください。

特に Orchestrator 接続でご利用時など、更新前契約終了日前に更新作業を行うことで、更新後減数した製品及び数量分が契約期間中にご利用できなくなる場合がございます。